

云ふわづらひの朝を待とく彼鷹の秘を秘にあらと
こほり飛しも秘ぬるをふと鷹も装束さふると云のこ一ノ句
四ノ句は朝待ぬるよかきとく初物よりふと云がう秘ぞとく
とくやた寫本や初句假字は書くつぬよると云ふ終夜の
文字を述くふとく人の書あやまぬるものや塙本や三ノ句
つとくはとくもや安くくもろく或鷹書は鷹の装束は
ふとくもはとくとの内赤皮装束ふとく装束連雀装束はとく
ゆとく数多うれと今も畧く
ちとくは尾とつせとくはとくとの袋ぬひとく入川、

古註は云ぬく尾袋の事と今ハ多く本綿ぬく製する事とを不用